

滋賀交通株式会社 代表取締役社長 田畑 太郎氏

interviewer 頭取 高橋 祥二郎 常務取締役本店営業部長 十二里 和彦

## 道路運送事業は地域社会の動脈。 利用者に寄り添う細やかな心配りが大切。

都市部でのタクシー事業とバス事業で収益性を高め、他に移動手段を持たない地域住民のために、滋賀県内での路線バス事業の継続を図る。滋賀交通グループの多角的な道路運送事業の背景には、そんな心意気がある。



滋賀交通株式会社 代表取締役社長 田畑 太郎 (たばた・たろう) 氏

1948年生まれ。71年、京都産業大学経営学部卒業。同年、滋賀交通株式会社入社。74年、取締役役に就任。97年、代表取締役社長に就任。滋賀観光バス株式会社、滋賀県観光開発株式会社など多くの代表取締役社長を兼任。一般社団法人滋賀県タクシー協会会長、一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会常任理事、一般社団法人滋賀県バス協会理事などの要職を兼務。

### 地域の足を守るため 廃止路線の代替バスを担う

高橋 乗合バス事業と観光バス事業、タクシー事業といった道路運送事業を柱に据えながら、自動車教習所事業、ゴルフ場や貸しビルの経営など幅広い事業を40社ものグループ企業を擁して展

開しておられる滋賀交通グループさん。今回の対談では、乗合バス事業、観光バス事業、タクシー事業を中心にお聞きいたします。

田畑 滋賀交通株式会社は1926(大正15)年に、祖父の田畑太郎右衛門が始めた甲賀の大原と水口を結ぶ乗合バス事業からスタートしました。当時の乗合

バスといえば、現在のマイクロバスのような車両で、祖父はそれを1、2台購入して事業を始めたようです。

十二里 乗合バス事業は滋賀交通さんの原点ですね。

田畑 父の田畑太郎の代になってからは、法人化して事業の拡大を図り、貴生川・石部間や水口・草津間を結ぶ路線を運行したかと思うと、すぐに水口・京都駅八条口間や琵琶湖と伊勢湾を結ぶ浜大津・三重泉湯の山温泉間の運行を始めるなど、旺盛に路線を増やし、営業区間を伸ばしまし

インバウンドや観光振興に期待が高まる大型観光バスの前で、右から高橋頭取、田畑太郎社長、十二里常務

た。しかし、モータリゼーションが進むにつれて、全国の乗合バス事業者と同様に、徐々に縮小傾向となりました。

高橋 滋賀交通さんの乗合バス事業の年譜を拝見すると、60年代後半までは新路線を次々と開業されていますが、70年代後半からは減便や休止が目立つようになります。このあたりが潮目だったのでしょうか。興味深いのは、91年からの十数年間、廃止が決まったJR路線バスの代替路線運行をお引き受けになったことです。

田畑 マイカーの普及が乗合バスの衰退を招いたとはいえ、地域社会には他に交通手段のない方々が大勢おられます。JR路線バスの廃止が決まった時は、石部や水口、土山などにお住まいの皆さまから、悲鳴にも似た存続要望の声が広がりました。この地域での路線バス事業で成長させていただいた当社にとって、その声に耳をふさぐわけにはいきませんが、不採算であることは自明でしたが、身を切るような経営努力を重ねて、地域の足の確保を担いました。

### 甲賀、湖南の暮らしを支える コミュニティバスを運行

高橋 当時の路線バスはいま、コミュニティバスに生まれ変わり、その運行を滋賀交通さんが各自治体から委託を受



地域の足として、観光地へのアクセスとして、注目される「コミュニティバス」

けておられます。

田畑 現在は、私も子どもが運行を任されている区間は、甲賀市域で28路線、湖南市域で13路線あります。JR路線バスの代替を担った実績が評価されたことに加え、長年の経験を通じて、地域の皆さまが路線バスに何を求めておられるかを肌で知っていることも、行政からの信頼につながっています。乗合バスに必要とされるのは、高齢者や障がいのある方々をはじめ、お客さま一人ひとりの目線に寄り添い、便利で安心なバスであるように心を配れる乗務員やスタッフがそろっていることです。それが私どもの大切に



豪華なインテリアと高い居住性が特長の大型観光バスの車内

ているところです。

**高橋** そんな姿勢が評価されたのでしよう。福井県の敦賀市や美浜町、石川県の野々市市など県外でもコミュニティバスの運営を担っておられますね。  
**田畑** 私どもが甲賀市や湖南市で運行するバスは、交通不便地域の解消に役立つ「過疎地域支援型」のモデルケースとして全国から注目されています。同じ地域事情を持つ美浜町や野々市市では私どもが蓄えた経験やノウハウが期待されています。

れたのでしよう。バス停を短い間隔で設置して利用しやすくするなど、運行形態やルート設定などにさまざまな配慮を凝らしたところも高く評価されています。敦賀市では地域内の観光スポットを巡る「ぐるっと敦賀周遊バス」も運行。鉄道に比べて柔軟にルート設定できるバスだからこそ、観光資源の掘り起こしによる地域活性化にも貢献できます。  
**十二里** 県内では、「湖南三山」(常楽寺、長寿寺、善水寺)の認知度アップに地元観光協会やJRと連携して取り組まれています。  
**田畑** コミュニティバスには3つの役割があります。まず、はじめに他に移動手段を持たない皆さまの足としての役割。次に、観光地や商業施設へのアクセスを担い、地域活性化を支えるインフラとしての役割。そして最後に、マイカーの代替手段として道路の混雑緩和や環境負荷低減を図る役割。バスだから果たせるこの役割を、これからも真摯に追求していきます。

### 観光バスは非日常を楽しむ「憧れの乗り物」でありたい

**高橋** 観光バス事業では、京都と大阪はもとより、名古屋や東京、北陸にまでグループ企業や営業所を広域に展開されています。

れておられます。  
**田畑** 収益性の高い大都市圏でのバス事業やタクシー事業の利益を循環させることで、滋賀県内での路線バス事業を存続させる。都市部での「大きな市場」に進出したことが、今となっては大いに役立っています。当初、県外では知名度が低くて、「長野の志賀高原にある会社」と間違われたほどです。劣勢を挽回するため、82年頃に当時珍しかったドイツ製2階建てバスを購入。認知度と収益が一気にアップしました。  
**高橋** 私は30歳代の頃、親睦旅行の幹事を任された時に「豪華な2階建てバスに一度は乗ってみたい」と言う参加者の声を聞き、滋賀交通さんをお願いしたことがあります。当時のバス旅行には日常から離れてロマンを楽しむようなところがありません。

**田畑** 観光バスは路線バスと違って、移動手段であるとともに、学校や職場の仲間と普段とは違う気持ちでふれあい、非日常を楽しむ「夢の空間」でなくてはなりません。バスの居住性や内装の仕様、車内サービスといった輸送以外の要素が創り上げる「憧れの乗り物」。そんな価値の提供を目指して、乗務員のおもてなしの向上を図る研修をはじめ、さまざまな努力を積み重ねています。



スマートフォンのアプリでタクシーを呼べるサービス(LINE TAXI)も好評

込め詐欺防止キャンペーン」を実施されたり、近畿初の禁煙タクシーに取り組みられたのも、そんな危機感の中で、「地域の足としての存在感をアピールされるためだったのですね。」

**田畑** タクシーであればバスであれ、私どもの道路運送事業は極めて公共性が高く、地域から愛され、支えていただかないと存続できません。13年の台風被害で信楽高原鐵道が長期間運休した際、私どもが1年2カ月にわたって代替バスを運行させていただいたのも、「地域の笑顔があつてこそその滋賀交通」と考えたからです。同じ発想から、滋賀県タクシー協会では出産が迫った妊産婦さんを産院へお送りする「ゆりかごタクシー」を13年にスタート。利用するには事前登録が必要ですが、親族が近くにおられない、パートナーの方の帰宅

が遅いなどで不安を感じる女性からは歓迎され、登録者はのべ4千人に達しています。  
**十二里** 乗務員がいざという際の対処法の研修を受けるなど、細やかな配慮が好感を得ているようですね。

### インバウンド観光振興にも道路運送事業者の立場で貢献したい

**高橋** 京都を訪れる外国人観光客数が過去最高を更新し続けるなど、インバウンド(訪日外国人旅行)によって、かつてない大きな地域振興の波が押し寄せています。観光と縁が深い事業を営まれてきた滋賀交通グループさんへの期待も高まっています。  
**田畑** 事業者の力だけでインバウンドの波を滋賀へ引き寄せることはできませんが、観光客が県内で最初に接触す

る機会が多いタクシーを通じて貢献できることはいろいろありそうです。滋賀県タクシー協会では、行き先や運賃などに関するFAQ(よくある質問)について英語、中国語、フランス語等の6カ国語で乗務員と意思疎通できる「Tell Meシート」の導入を開始しました。さらに今年、宅配業者と提携して、観光客の手荷物をコンビニに預ければ夜の8時までに宿泊先に届ける新しいサービスを開始する予定です。

**高橋** 「かゆい所に手が届くタクシー」との思いで滋賀の好感度を高められています。観光バス事業で主要な観光地をカバーしておられることも、今後の外国人利用をさらに促進することになるでしょう。  
**田畑** 外国人観光客が行きたいと思う所をほぼ網羅しているのは私どもの強

みです。これを、滋賀の観光振興につなげる対策として考えたいですね。  
**十二里** IT(情報技術)を使った顧客満足への取り組みにも熱心ですね。  
**田畑** スマートフォンでタクシーを呼べるアプリもいち早く導入しました。しかし、道路運送事業者にとって最も大切なことは、安全運転と事故防止への心構えであり、心を込めてお客さまをおもてなしする誠実さです。どんな時代になってもそれは変わりません。機械やシステムでそれを代替することもできません。そのことを肝に銘じ、今後も地域社会を支え続ける存在でありたいと思っています。  
**高橋** これまで知らなかった御社の道路運送事業者としての矜持に触れることができました。本日は誠にありがとうございました。

## 滋賀交通の環境方針 基本理念

当社は、地球環境の保全ならびに環境への負荷低減を、輸送サービスの提供という事業活動を通して推進することが、企業の社会的責任の一環であると認識し、環境問題への継続的取組、改善に努め、地域社会との共生を目指します。

### 会社概要

## 滋賀交通株式会社

- 資本金/9,000万円
- 従業員数/1,700名(滋賀交通グループ)
- 事業内容/一般乗合バス、観光バス、タクシー、カーディーラー、自動車教習所、貸しビル、ゴルフ場、ボウリング、ガソリンスタンド、飲食店等運営
- 本社所在地/甲賀市甲南町寺庄395番地の2
- 大津本部/大津市梅林1丁目3番10号
- URL/http://www.ii7.jp/(滋賀交通グループ)

### 沿革

- 1926年 大原バスを創業。大原村(現・甲賀市甲賀町)と水口町(現・甲賀市水口町)間を結ぶ乗合バスの運行を開始
- 1937年 田畑太郎右衛門の経営する大原バスを田畑太郎が承継
- 1949年 甲賀交通株式会社を設立して、乗合バスとタクシーの運行を再開
- 1950年 滋賀交通株式会社に改称して路線を拡充一般貸切旅客自動車運送免許を取得し、貸切バスの運行を開始
- 1956年 事業区域を京都府に拡大、観光バスを配置
- 1965年 水口町～京都駅八条口間に路線特急バスを運行
- 1987年 小型バス専業の滋賀バス株式会社を設立
- 1991年 JRバスの路線廃止に伴い、代替バスの運行を開始
- 2004年 滋賀県広域合併により、甲賀コミュニティバスの運行業務を担当
- 2014年 東京、名古屋、滋賀、京都、大阪、金沢、福井、四日市の営業所連携を強化し、輸送力を整備

